

今月のトピックス

1 風しんの流行が続いています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
レジオネラ症	2 件	破傷風	1 件
アメーバ赤痢	3 件	風しん	88 件

- 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件 (O157 VT2) の報告がありました。感染経路等調査中です。
- デング熱: 2 件の報告がありました。どちらも渡航先 (インドネシアバリ島) での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型 1 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。肺炎型は国内での水系感染が推定されており、ポンティアック熱型は感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件は国内での異性間性的接触、もう 1 件は中国、マレーシアでの感染が推定されています。残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明です。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 1 件の報告がありました。全身のリンパ節腫脹を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 6 件の報告があり、それぞれの症例は、60 歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は発熱、意識障害、項部硬直で髄膜炎と診断されています。血清型 11 型 (血液より)。娘、孫に感冒様症状あり。70 歳代男性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と意識障害で、髄膜炎と診断されています。血清型 22 型 (血液、髄液より)。80 歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳、全身倦怠感で肺炎と診断されています。血清型 19 型 (血液より)。80 歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、咳で、肺炎と診断され、口腔内分泌物の誤嚥が原因と推定されています。血清型 15 型 (血液より)。70 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は頭痛、発熱と倦怠感で、血液から肺炎球菌が検出されています。血清型 14 型 (血液より)。1 歳男児。ワクチン接種歴 3 回 (7 価結合型) 有り。症状は発熱、咳、痙攣と項部硬直。血液、髄液より肺炎球菌が検出されています。血清型は現在検査中です。今回、60 歳以上の症例のすべてで予防接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
- 破傷風: 1 件の 60 歳代男性の報告がありました。国内での労働環境からの感染が推定されています。
- 風しん: 88 件 (男性 66 件、女性 22 件) の報告がありました。10 件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4 月 22 日から予防接種の助成が始まっています。



は、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4 月 22 日から予防接種の助成が始まっています。

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

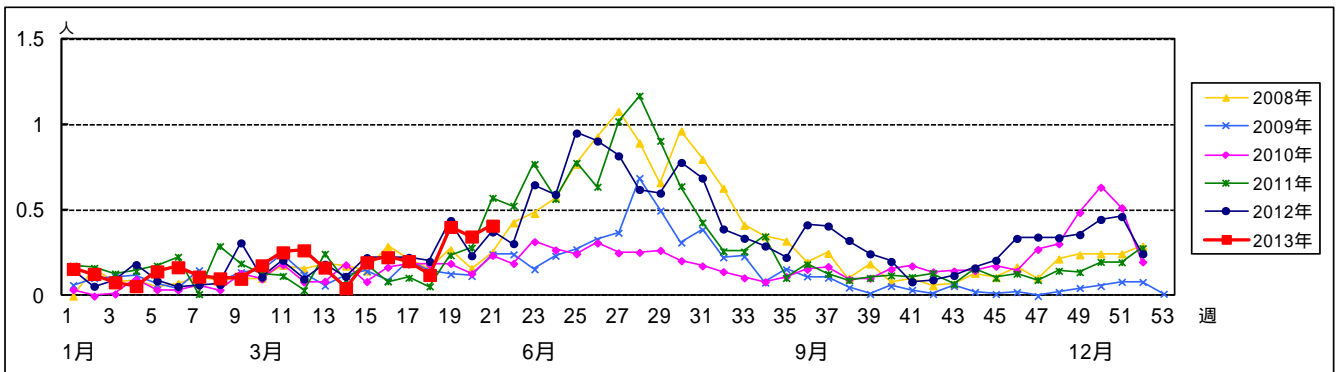
横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

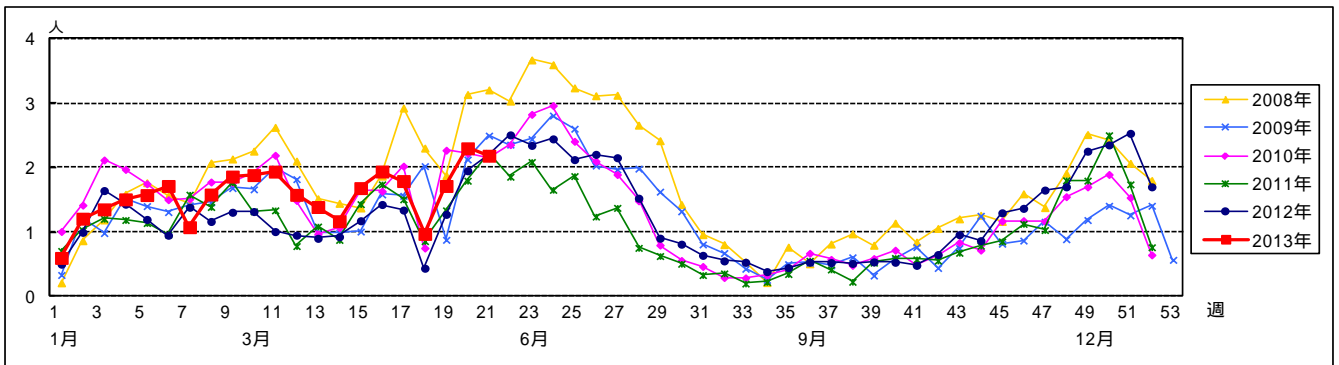
定点把握の対象

- 1 **咽頭結膜熱**:市全体で第21週0.41とやや増加しています。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。

第17週	4月22～28日
第18週	4月29日～5月5日
第19週	5月6～12日
第20週	5月13～19日
第21週	5月20～26日



- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第21週は市全体で定点あたり2.19と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値8.00を大きく下回っています。



- 3 **性感染症**:4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。
- 4 **基幹定点週報**:全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第20週0.49、第21週0.51と落ち着いてきています。横浜市でも第17週0.75、第18週2.00、第19週0.50、第20週0.50、第21週0.00と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきました。第17週に無菌性髄膜炎の報告が1件(7歳女児。髄液よりウイルス検索中)ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>